開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	2	選択
担当教員			
竹上 健			

授業のねらい（概要）	<p>コンピュータおよびインターネットの発展と普及に伴い、情報システムはあらゆる産業の発展に貢献しつつ進化を遂げてきた。歴史は現在を理解し明日を洞察するためのものと言われている。本講義では、これからのIT経営への活用を目標に、前半で情報システムに関する理論・技術を学習したのち、後半は特にわが国における情報システムの発展過程に注目して研究・議論を展開する。</p> <p>ディプロマポリシー（修了認定・学位授与に関する基本的な方針）の4項目を意識した科目となっているが、特に、「一般的及び専門的教養の基礎の上に、構造的・システムの分析能力を身につけている」「実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている」を養成する。</p>
授業計画	<p>第1回</p> <p>①「情報システム特論」について（講義概要、講義目標、成績評価の方法など）</p> <p>第2回</p> <p>②情報基礎理論1（2進数に関する表現と演算）</p> <p>第3回</p> <p>③情報基礎理論2（情報量の表し方、デジタル化の考え方）</p> <p>第4回</p> <p>④情報基礎理論3（文字、音声、画像などのマルチメディア情報の統合的処理について）</p> <p>第5回</p> <p>⑤情報基礎理論4（ヒューマンインタフェース技術について）</p> <p>第6回</p> <p>⑥情報基礎理論5（コンピュータネットワーク、通信技術、ネットワーク構成要素について）</p> <p>第7回</p> <p>⑦わが国における情報システムの発展</p> <p>第8回</p> <p>⑧情報システム技術の発展</p> <p>第9回</p> <p>⑨ハードウェアとソフトウェアの発展</p> <p>第10回</p> <p>⑩情報システム部門の組織と役割</p> <p>第11回</p> <p>⑪情報システムの企業における発展事例</p> <p>第12回</p> <p>⑫製造業における情報システムの特徴と発展</p> <p>第13回</p> <p>⑬流通業における情報システムの特徴と発展</p> <p>第14回</p> <p>⑭金融業における情報システムの特徴と発展</p> <p>第15回</p> <p>⑮これからの情報システムおよび「情報システム特論」に関するまとめ</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>ディプロマポリシー（修了認定・学位授与に関する基本的な方針）の4項目を意識した科目となっているが、特に、「一般的及び専門的教養の基礎の上に、構造的・システムの分析能力を身につけている」「実践的な問題解決能力及び管理運営能力を養い、知識基盤社会を支える高度で知的な素養を身につけている」を養成する。</p>
到達目標	<p>①情報システムに関する用語を正しく定義でき説明できる。</p> <p>②情報システムの基盤となる理論を理解し説明できる。</p> <p>③情報システムの構成を理解し説明できる。</p> <p>④情報システムの発展経緯の概要を理解し説明できる。</p>
課題や小テスト等のフィードバックの方法	<p>翌週の授業のはじめに課題などを確認しながらフィードバックを実施。</p>
履修上の注意	<p>本講義では、情報基礎理論理解のため、「ITパスポート試験」における「テクノロジ系」を中心に「ストラテジ系」「マネジメント系」の問題を教材とした学習も展開していく。また、配布プリントを参考資料としてインターネット検索などを活用して、情報システムの発展経緯をそれぞれの産業分野に着目したまとめを行っていく。多くの課題が課せられることになるので、欠席や遅刻をしないだけでなく、経営、法務、企画およびマネジメントなどに関する学習も心がけておくこと。</p>
成績評価の方法・基準	<p>①出席状況、講義への意欲・態度(20%)、講義中の課題の解答状況(30%)、期末課題レポート(50%)の結果で総合的に評価する。</p> <p>②出席率が70%に満たない者、期末課題レポートを提出しなかった者には、単位を認定しない。</p>

教科書	特に使わず、電子教材・課題プリントを配布する。
参考書・教材	【参考書】情報処理システム入門（第3版） 著者名：浦 昭二・市川照久共編 出版社：サイエンス社 発行年：2011年 価格：1942円／明日のIT経営のための情報システム発展史（総合編） 著者名：経営情報学会 情報システム発展史特設研究会編 出版社：専修大学出版局 発行年：2010年 価格：2940円
備考	講義科目／実務家教員による授業
教員との連絡方法	電子メール（アドレスは初回の授業で通知。）